長沼町総合振興計画審議会　福祉部会（第１回）議事概要

開催日時：平成２２年１２月９日（木）10:15～11:25

開催場所：長沼町役場　第４会議室

【出席者】

＜審議会委員＞４名

後藤部会長、桂委員、十河委員、安田委員

＜長沼町役場総務政策課＞

齋藤課長、高井企画官

【会議録】

１　開会

後藤部会長

昨年、老人クラブ連合会会長であった後藤です。私より皆様のほうが詳しい中恐縮ですが、ご指名がありましたので部会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

２　議事（後藤部会長が議長となり進行）

後藤部会長

事務局から説明があればどうぞ。

高井企画官

【素案を元に説明】

桂委員

素案についてはこれで良いと思うが、何をするにしても経済的に成り立たないと目的が達成できない。そのためには、人が増えないといけないが、若者が喜んで働く場所が必要である。高齢者福祉の介護施設も雇用の場となる。個人的な考えだが、馬追丘陵に高齢者の方が憩いの場として住めるような施設があり、そのような場所で働けるのは魅力的ではないか。

学校の統廃合を行い、廃校施設を手直しして、福祉の学校をつくってはどうかと考える。そして、その学校の学生は優先的に町で就職してもらうのが理想ではないか。

高齢者はコストばかりかかるという考えは正しくないと思う。高齢者の施設を整備し呼び込めば、雇用の場も増え、人口の増加も見込めると思う。

後藤部会長

東京近郊の大きな団地あたりでは、昔そこに移った若い人がみな高齢者となり、周りとの交流もなく施設についても不十分で困っているそうだ。将来の高齢化を見据えた施策、施設が必要。

安田委員

高齢社会を支える施設として病院があるが、町立病院の経営が厳しい状況にあると聞いた。建物が古いので改修などを行いながら経営を改善していくのは並大抵のことではないと思う。経営検討委員会などはあるか。

齋藤課長

委員会は、病院内部にも、外部にもある。今は前段の段階で、民間の専門機関に経営分析を依頼しているところであり、内部の検討委員会でも検討を進めている。病院の耐震診断も

２月頃には結果が出る予定。病床の稼働率は現在６割程度で、老健施設に切り替える検討もしており、何床をそちらに切り替えるかなども、経営改善の方針と合わせて検討を行う。

後藤部会長

先月のまちづくり懇談会では、長沼内科消化器科の裏手で計画している施設については、今の情報では比較的高所得者を対象とした介護付き老人ホームと聞いており、老建施設とは競合しないと説明があったところ。町立病院では最上階を老健施設に切り替えるという考えもあると聞いた。国の補助などをうまく使って建て替えをしていただければと思う。長沼内科消化器科のところも含め、雇用は増えると思う。

桂委員

夕張の市立病院は診療所となったが、うまくいっているのか。

齋藤課長

診療所では救急患者等に対応しきれないため、岩見沢なども含めて広域で取り組めるよう打合せを進めているところ。実際、夕張からの患者は、町立病院のほか、長沼内科や岩見沢や栗山などの病院にもいると聞いている。広域での取組が進めば、町立病院の役割も向上することになる。

十河委員

迎光園さんでも、ベッドが空くのを待っている方が相当いらっしゃる。特別養護老人ホームがあれば、そこに殺到する状況である。また、迎光園さんでは建替をする動きがあると把握している。

桂委員

迎光園さんのような施設は重要。また、町内の病院は札幌の専門医とよく連携をとってほしいと思う。専門的な治療が必要となったとき、長沼クリニックさんはすぐ札幌の病院に連絡をしてくださり、札幌の病院の受け入れもスムーズであったことに感謝している。

安田委員

健康維持増進事業ということで、町ではながぬま温泉の回数券やパークゴルフ場の町民割引などを行っているが、この効果はあり、評価できると思う。

後藤部会長

空知の、老人クラブ連合会会長の会議に行ったことがあるが、他の市町にこのサービスはない。

町立病院の利用率は低くなっていると聞いている。ただ、町立病院の医療施設等を充実しても、皆が行き利用率が上がるとは限らないのではないか。

桂委員

長沼だけでなく、他町も同じような問題を抱えているのではないか。老健施設に切り替えるなら早いほうが良いと思う。

安田委員

アンケートの結果を見ると医療の充実に関する要望が多いが、確かに充実することは重要。しかし、結果として過大な投資となり、町財政を圧迫することのないようにしなければならず、難しいところである。設備などを充実させ、その投資に見合うだけ患者が増えるか、町立病院の利用率が増えるかというところ。

桂委員

高齢者施設は、自分が動けるうちに入所できればよいのだが、要介護状態となりさらに１

～２年待機してようやく入れるという方もいる。本来はこういう施設ではないと思う。少子化になり子どもたちに頼ることができなくなってきているので、ゆとりある老後を送るためには、退職した時点で今後のことをしっかりと考え準備が必要。

小学校、中学校を中央に集めれば膨大な経費の節約になり、また、インフラ整備なども見直すなどして、その経費を高齢者施設の整備に充てるのがよいのではないか。

安田委員

学校の統廃合問題について、現在の動きは。

高井企画官

今年３月に「長沼町が目指す学校教育の姿」をまとめ、１０月から先生や保護者等が委員である「学校規模適正化検討委員会」を開催し、子どもたちにとってよりよい教育環境の実現に向け、学校の適正規模について検討を進めているところ。

齋藤課長

来年の秋くらいには、検討結果をまとめたいというスケジュールである。また、保育園についても統廃合を検討しており、地元と意見交換をしている。北、西については園児数が１０人を下回っている。

桂委員

統廃合は、できそうな地区から順次進めてはどうか。学校が統合されると、経費の加算として、スクールバスの運転がこれまでより１０～１５分程度長くなるが、それ以上に学校が存続することの経費が多すぎる。

北長沼小学校の授業参観に行ったが、小規模すぎるのか、先生と児童が密接すぎて友達感覚で授業を行っているように感じた。これでは、進学して大きな学校に行ったら周りに溶け込めないのではと心配になる。昔は複式学級でも、その児童の学年でない内容の授業をしているときに騒いでいたら怒られたものだが、今は先生もなかなか怒れないようだ。

学校に係る一人あたりのコストは中央と比べてとんでもない開きがあると思うが、勉強の効率については真逆だ。

十河委員

公開授業を見ると先生はすばらしいと思ったが、普段は見たことが無い。授業参観でそんな感じだとは。

安田委員

学校の統廃合問題は、子どもにとって本当にそれでよいのか、そこを踏まえて進めていくべきと思う。

後藤部会長

舞鶴小学校も今は児童が１６名しかいないが、校長先生以下職員は９名である。私自身は統合してほしいと思うが、学校周辺では地域がさびれるということで反対されている方もいると聞く。そういう方も、統廃合後の校舎を有効利用する方針が決まれば、納得いただけるのではないか。

桂委員

北長沼は以前広範囲で市街地があったが、夕張鉄道の駅ができた際に、市街地がその周辺に移動したと聞いたことがある。しかし、夕張鉄道が無くなってからは（従前から学校があるにもかかわらず）閑散としてきた。学校があるから集落が栄えるとか、無いから寂れるとか、そんな極端なものではないのではないか。時代の流れに順応していかなければならない。

後藤部会長

高齢者福祉について、長沼町の老人クラブは参加者が増えているが、他町では１年間に百人単位で参加者が減っているようだ。町の補助などもあり、手厚く見守ってくれていると思う。また、社会福祉協議会やボランティア協会にもご協力いただき、恵まれていると感じた。

生活援護についてだが、現在の民生委員は何名か。また、民生委員の活動の活性化等について課題は。

十河委員

民生委員は３７名である。現在、生活保護については、民生委員の仕事から離れている状況。これは、個人情報保護の関係もあるかと思われる。生活援護については、主に町で行っている。

※次回の福祉部会は、２２（水）９：００～　役場３階第１会議室で行う。